

『どん底にいる人』

文 伊藤公一

text by Kouichi Ito

絶好調であったはずの安倍晋三首相率いる自由民主党に激震が起きている。森友学園に引き続き、加計学園。稲田朋美防衛相の失言。下村博文元文科相に新疑惑。極めつけは豊田真由子代議士の秘書や運転手への暴言問題と、際限のない逆風が吹き荒れている。

そして、それらは全てが国政レベルの話のはずが、なぜか都議選に深く絡み、小池百合子都知事が新設した「都民ファーストの会」が圧勝。民進党は蚊帳の外。

このように何が起ころるか分からない政治の世界であるが、それにしても今まで全くの無名であった豊田真由子女史は、いったい、どういう人なんだろう。小生、幸いにして、年齢の割に毛髪の量があるので、毎日、テレビで聞かされる「この、ハゲは」の怒号には全く傷つかないが、初当選以来、4年半で約100人の事務職員が辞職したというんだから、程度の差はあれ、録音に残された暴言に傷ついた人は限りなく存在するのであろう。

さらには東京大学出身者で、我々、医療人が、いつも従順に従っている厚生労働省官僚経由の政治家と聞いて、益々の驚きを覚えている。

それでも人間、悪いところばかりじゃないから、お世話になった人もいることである。

現在、入院中と聞かすが、いつかは退

院しなければならぬはずだ。そして、その後、議員を続けても辞職しても、まだ42歳の彼女の人生は、夫と子供と共に続くわけだ。

そこで知らない人だし、好みの容姿でもないで、豊田先生は、どう考えても、順調に歩んできた人生の「どん底」から這い上がるわけだ。

そして、どこの病院に入院しているかは知る術も無いが、こういう時に主治医は、どうやって治療を施すんだろうか。

精神科医が対処しているはずだが、通常の病院では酒も飲めないし、カラオケもないし、スポーツクラブもないから、おそらく睡眠剤や精神安定剤で、ひたすら寝かされているのであろう。それから退院後には、どんな本を読んだり、映画を観たり、音楽を聴いたりするのか。なんだか下世話な興味が生まれる。

それでも、「どん底」にいる人間、沢山寝て目が覚めれば新しい日が来て、なんとなく元気になってくるだろう。

そう言えば、先日、夜の報道番組を見ていたら、退任後1年の舛添要一東京都知事が「あの騒ぎは人民裁判」だと、堂々と正当性を語っていたのを見て、妙に納得する自分も存在した。

それにしても松居一代は自分から、世の中に心情を提供し、人民裁判を仕

掛けているんだから同情もされないだろう。そこで船越英一郎と、どっちが可哀そうかなんていうアンケートや街頭インタビューはくだらなすぎる。

生きていけば、誰でも「どん底」の時期は訪れるはずだが、男と女、大人と子供、有名人と無名人、秀才と凡才、どちらが逆境に強いんだろうか。でも、きつと自分の

ことは自分が一番、分らないことであらう。

妙なことを考えさせられた1カ月間であったが、いざれにしても気候変動や北朝鮮のミサイル問題の方が、今の日本にとって大きなことに違いない。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院www.ito-hospital.jp 大須診療所(名古屋分院)www.osu-shinryoujyo.jp

